

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2014年 8月 1日 No. 17

目次		ページ
アンゴラ月報	1
セネガル月報	2
ベナン月報	3
ボツワナ月報	4
SADC 月報	6
マラウイ	6
モロッコ政治月報	7

アンゴラ月報（2014年6月）

【内政】

- 3日、閣僚経済委員会が行われ、国産の建設用鉱物資源保護に関する大統領令案を審議した。
- 4日、地雷除去執行国家委員会によるデータ公表。
- 27日、SME職員、不正により解雇。
- 28日、SMEによれば、パスポート及び就労ビザの発行は正常化され、近々出入国に対する扱いも正常化される。

【外政】

- ドス・サントス大統領、ブラジル及びキューバを公式訪問。
- 4日、カーボヴェルデ首相の来訪。
- 6日、アンゴラ、コンゴ（共）、チャドによる三カ国首脳会談。
- 13日、大湖地域防衛閣僚会合の開催。12加盟国中11ヶ国が参加（ウガンダが欠席）
- 30日、第1回ポルトガル語公用語アフリカ諸国フォーラム（FORPALOP）、ルアンダにて開催。

【経済】

- 主要経済指標：物価、金利、為替市場。

- 財政：2013年の非石油部門の税収増、前年比34%増。2014年は42%増の見込み。
- 第165回 OPEC 定例総会にセキウ大臣出席。
- アンゴラの原油生産量に日量160万バレルまで低下。
- 対中国貿易（1～4月）、総額は133億3340万ドルで域内シェア第2位（32%）、輸出額は120億3,400万ドル、輸入額は13億ドル。
- 民間投資契約。
 今月、ANIP（民間投資庁）は、計15件の投資案件を承認した。分野は、製造業、商業、建設業、ホテル業、観光業、サービス業で、ルアンダ州、ザイレ州、ウアンボ州、カビンダ州、ベンゴ州にわたり、資本は、アンゴラ、南ア、マリ、モーリシャス、ポルトガル、英国、韓国、中国、香港の企業による投資。
- 製造業
 - (1) セメント材料の輸入
 - (2) ンゴラビール生産拡大
- 輸送・通信インフラ
 - (1) モサメデス鉄道、花崗岩を運搬
 - (2) ボーイング機の到着
 - (3) ポルトガル語衛星放送チャンネルの新設

http://www.angola.emb-japan.go.jp/document/report/201406angola_report.pdf

セネガル月報（2014年6月）

【内政】

- 5日、チェス移動閣議が開催され、同州の開発のために合計4,480億FCFAの支出が発表された。
- 10日、国際人権連盟（FIDH）は、セネガル人権リーグ及び人権擁護団体（RADDHO）と連名のコミュニケを発表し、財の不正取得抑制のための監査院（GREI）が被告の権利を保障しておらず、政治的操作が人権に優先されている旨非難した。
- 15日、地方選挙に向けた選挙運動が開始された。
- 17日、カリム・ウッド元大臣弁護団は、パリ財政検事局に付託されていた同元大臣による財の不正取得疑惑が不起訴処分とされた旨発表した。
- 29日、全国で地方選挙の投票が全国的に平和裏に実施された。ダカール、チェス、サン・ルイ、ジガンシオール、コルダなど全国の主要都市において与党「希望のための結束」連合（BBY 連合）の敗北が予想される。

【外政】

- 14～15日にかけて、NEPAD ダカール・ファイナンス会合が開催され、サル大統領、ジョナサン・ナイジェリア大統領、ケイタ・マリ大統領、ヤイ・ベナン大統領、ジョップ世銀アフリカ担当副総裁、カベルカ・アフリカ開銀総裁、ズマ AU 委員長らが出席した。委員長

らが出席した。同会合においては、ダカール・バマコ鉄道の近代化を含め PIDAP（アフリカ・インフラ開発プログラム）の中から 16 のインフラ整備プロジェクトが選定された。

●26 日、サル大統領はマラボ（赤道ギニア）で開催された AU 首脳会合に出席した。

【経済】

●4 日、政府はタンバクンダ州ファレメ鉄鉱山の開発中止に関する賠償金 1 億 1,000 万ユーロを印系国際鉄鋼メーカー、アルセロール・ミタル社から受領した。

●24 日、IMF 第 7 回経済・財政プログラムレビューにおいて、セネガルの政治経済支援インストルメント（ISPE）の実施状況は良好である旨あきらかにした。

●31 日、セネガル・エアラインズ社は、エアバス 3 機をリース元の米 GECAS 社に返却した。今後は自社保有の 2 機で国内線及び国際線を運行することとなる。

<http://www.sn.emb-japan.go.jp/pdf/jp/sn/geppou1406.pdf>

ベナン月報（2014 年 6 月）

【内政】

●8 日、昨今警察官が強盗等に殺害される事件が頻発していることを受け、ヤイ大統領は警察官を激励するためのワークショップを開催した。

●9 日、ナイジェリア国境、イゴロ（Igoro）において、並列型国境警察署（Poste de police juxtapose）の開所式が実施され、ウス（M. Francois HOUSSOU）内務・公安・宗務大臣が出席した。

●13 日、アボメイ高等裁判所において、隣人に呪い（gris-gris、約 2 万 FCFA）をかけて殺そうとしたとして、アボメイ市在住の女性及び呪いを請け負ったとされる呪術師に対する審理が開始された。

●17～19 日、パリでベナン開発の資金調達のためのラウンド・テーブルが開催された。

●20 日、国民議会において、司法官のストライキを禁止する法案が提出された。これに対し、ベナン司法官全国同盟及び市民社会は、憲法違反であるとして、猛反発した。

●26 日、「国際麻薬乱用撲滅デー」にあたり、コメでセレモニーが開催された。ベナンにおいても、近年マリファナの栽培が増加していると言われており、また、ヘロインやコカインの密輸入も増加傾向にある。

【外政】

●12 日、新しく大統領に就任したヴァス（M. Jose Mario VAZ）ギニア・ビサウ大統領がベナンを訪問し、ヤイ大統領と会談した。

●23 日及び 24 日、ハイレマリアム（M. Desalegn HAILEMARIAM）エチオピア首相がベナンを訪問し、ヤイ大統領と会談した。

●26 日、ヤイ大統領は、赤道ギニアの首都マラボで開催された第 23 回 AU 首脳会合に出席した。

●30 日、カナダの前総督で次期国際フランコフォニー機関の次期代表候補であるジャン（Mme Michaele Jean）氏がベナンを訪問し、ヤイ大統領と会談した。

【経済】

- 6日、UEMOAがベナン全土で100基の井戸を建設することを決定。
- 11日、国内綿花関連企業5社が、ナゴ国民議会議長を訪れ、2014年度は綿花生産量自体が豊作であったにも拘わらず、これら5社はヤイ政権の綿花政策により多大な損害を被ったとして、綿花政策の不適切さを訴えた。
- 14日、Maersk社のWafmax号がコトヌ港に接岸し、ヤイ大統領及びシャンタル夫人が同船を出迎えた。同船は全長249,1m、4,500TMのコンテナの大型船であり、西アフリカ・アジア間貿易の起爆剤となることが期待されている。
- 22日、クウェートのNGO、Directaidがコメで「クウェート国際大学」を建設する旨決定し、同大学の定礎式が実施された。
- 23～26日、第2回ベナン・トルコ貿易・投資フォーラムを実施した。

<http://www.bj.emb-japan.go.jp/j/pdf/geppo.pdf>

ボツワナ月報 (2014年 6月)

【内政】

- 1 オカバンゴ湿地帯、ユネスコ世界遺産に登録。
- 2 2014年総選挙に向けて。
 - (1) 有権者登録の違法操作問題
 - (2) UDC、マニフェスト発表
 - (3) BDP、ハボロネ副大臣を候補者に指名
 - (4) IEC、有権者登録変更の受付開始
 - (5) BTV、ラジオ局、候補者討論を放送
- 3 ボツワナ国籍の難民認定者、200名超。
- 4 バカトラ族、族長への告訴取下げを要求。
- 5 防衛軍司令官、防衛軍の予算不足を懸念。
- 6 BDF、スパイ機器を紛失。
- 7 BCP党首、DIS長官の懲戒解雇を要求。

【外交】

- 1 カーマ大統領、マラウイ大統領就任式出席。
- 2 ボツワナ、外交政策案を年内に策定。
- 3 ボツワナ、スーダン政府を批判。
- 4 ジンバブエ政府、BDF・ボツワナ警察に抗議。
- 5 ミラー・ヨハネスブルグ総領事、次期駐ボツワナ米大使に。

【経済】

1 経済指標

(1) インフレ率が 4.5%となった。水道料金の税率が上がる可能性もあることから、インフレ率上昇が懸念されている。

(2) 2014 年の経済成長率、世銀は下方修正 4.1%を見込むと発表した。

(3) 金融

ボツワナ中央銀行は中銀の公定歩合、商業銀行のプライムレートともに、それぞれ 7.5%、9.5%に据え置く旨発表。南ア国内のインフレが、今後ボツワナ経済に影響するとの見方もある。

2 財政

ボツワナ中央銀行は、2013/14 予算年度の政府債務残高に関し、前年比 4.8%増の 309 億プラに上る見込みであると発表。債務残高のうち、223 億プラは国内債務、86 億プラは対外債務である。国内債務には、スタンダードチャータード銀行が融資を行うオカバンゴ・ダイヤモンド社の政府保証債も含まれる。国会の公決算委員会では、政府債務残高が政府基準（対 GDP 比の債務比率は各 20%以下）に達する可能性について懸念が示された。

3 第 11 次国家開発計画（NDP11）の策定作業開始

4 ダイヤモンドセクター

(1) Ghaghoo 鉱山、2014 年後期に採掘開始。同鉱山では 2 千万カラット、価値にして 4 6 億米ドル相当の採掘が期待されている

(2) モカイラ鉱物エネルギー水資源大臣は、ボツワナ国内のダイヤモンド鉱山の採掘寿命は、当初予想の 2030 年から 2050 年まで延長される可能性があるとして述べた。

5 電力セクター

(1) 電力不足への懸念

(2) IPP による電力開発参入が指摘される。

6 石炭セクター

(1) コールベッドメタン開発調査。

(2) 2020 年までに石炭開発の増加が期待される。

(3) 東側（モザンビーク）への鉄道開発 F/S 調査開始。

7 建設業・製造業

(1) ハボロネ国際空港の追加改修工事

(2) 乳製品会社の設立、却下

8 貿易・投資

(1) 対 EU との EPA 交渉の進捗

(2) ザンベジ農商業プロジェクトへの投資誘致

(3) 収益性指数ランキング 1 位

米国 Foreign Policy 誌が発表した 2014 年の収益性指数（PI）ランキングによると、ボツワナは、112 カ国中 1 位にランクされた。同数値は、経済成長、金融安定、治安、汚職等の 8 つの項目を評価しており、2 位は香港、3 位は台湾であった。

9 経済協力

(1) 第 11 次欧州開発基金による支援、3 億ピラー—教育、公的セクター改革、

(2) 米国貿易開発庁による支援、7 百万ピラープロジェクト・マネジメントオフィス、

10 中国系商店への捜査・違法商品等の押収

<http://www.botswana.emb-japan.go.jp/downloads/report/2014.06.pdf>

SADC 月報 (2014 年 6 月)

【SADC 政務】

●16 日、ベルギーのブリュッセルにて SADC・EU 政治対話が開催され、タックス SADC 事務局長ら両機関関係者は、SADC・EU 間の優先政策分野及び経済協力につき協議を行った。

【SADC 経済】

●4 月 29-30 日、税分野に関する第 3 回ハイレベル政府高官会合が開催され、二重課税防止条約及び付加価値税、消費税、税金等に関する域内協力について協議が行われた。

●5 月 20 日及び 21 日、SADC 事務局は SADC 域内の人身取引犯罪に関し、域内データベースを作成するための準備会合を開催し、SADC 加盟国、UNODC、IOM 関係者らが参加した。

●10 日、SADC 事務局にて SADC・HIV/AIDS テーマ別会合が開催され、SADC 事務局に支援を行う国際機関及び事務局 HIV/AIDS ユニット関係者らが参加、年間報告等を行った。

●10-12 日、ボツワナのカサネにて、第 7 回地デジ放送フォーラムが開催され、SADC 加盟国及び関係者らが出席し、SADC 地デジ化ロードマップの履行に関し協議を行った。

●17-21 日、南アフリカのプレトリアにて、指導者のための税関研修が開催され、SADC 加盟国の税関業務に携わる関係者が参加した。

【SADC 事務局の会合予定】

7 月 7-8 日、気候変動に関する国際連合枠組条約及び第 20 回締約国会議 (COP20) に関する会合 (南アフリカ、ヨハネスブルグ)

7 月 7-11 日 金融サブ委員会 (ボツワナ、ハボロネ)

7 月 14-16 日 第 6 回河川流域ワークショップ (ボツワナ、ハボロネ)

7 月 14-18 日 保健・農業関連閣僚級会合 (マラウイ、リロングウェ)

7 月 20-25 日 政治防衛安全保障協力 (オーガン) 閣僚級会合 (ナミビア)

7 月 21-25 日 ジェンダー問題に関する閣僚級会合 (マラウイ、リロングウェ)

8 月 17-18 日 SADC 首脳会合 (ジンバブエ、ビクトリアフォールズ)

<http://www.botswana.emb-japan.go.jp/downloads/SADC-report/2014.06.pdf>

マラウイ月報 (2014 年 6 月)

【内政】

●2 日、ムタリカ大統領就任式

●2 日、マラウイ選挙委員会 (MEC) が国会議員選挙結果を発表。

●16 日、ムソオヤ野党 MCP 副総裁 (カロンガ・ニュングウェ選出・2014 年大統領選挙

で副大統領候補)が国会議長に選出された。

●17日、第45回予算国会が開会。

●22日、ムタリカ大統領が新内閣を組閣、省庁統合の結果閣僚数を削減。省庁数は17、閣僚数は20となった。

【外政】

●5日、バンダ前ザンビア大統領がマラウイを訪問。

●24日、李熙中国国家衛生・計画生育委員会副主任(副大臣)がマラウイを訪問。

●25日、テムベヌ法務・憲法問題大臣は、マラウイ・タンザニア間の湖を巡る国境問題にかかる協議を9月に再開する旨発言。

【経済】

●5月の前年同月比インフレ率は、22.6%であり、前月より1.3ポイント低下。

●一般財政支援グループ(CABS)議長バウムEU大使が、CABSの形態変更予定に言及。

●17日、ムタリカ大統領は施政方針演説において、政府は、資源採掘契約に関して独立した交渉機関を設立する予定であると述べた。

●24日、国連貿易開発委員会(UNCTAD)発表の同報告書によれば、2013年の対マラウイ海外直接投資は1.18億米ドルであり、1.29億米ドルであった2012年よりも10%減少した。なお、隣国各国の海外直接投資額と比較すると、モザンビーク59億米ドル、タンザニア19億米ドル、ザンビア18億米ドルであり、それらと比較すると当国への海外直接投資額は小さい。

●26日、グローブ・メタル・アンド・マイニング社(同社の株の51%は中国国営企業が取得している)は、当国におけるカニカ鉱山・ニオブ採掘計画に関し、中国、広州非鉄金属研究所(GZRINM)において(ニオブの)冶金試験を開始したと発表した。

●27日、国会は7月～10月までの暫定予算案を承認。

●葉タバコ統制局(TCC)は、今年の葉タバコ生産量見積もりを元々の19.8万トンから19.3万トンへと下方修正した。これによれば、葉タバコの総取引額は3億米ドルとなる予定であり、昨年の3.6億米ドルの総取引額と比較すると減少となる。6月末時点で11.4万トン、約2億米ドルの葉タバコの取引が完了している。

http://www.mw.emb-japan.go.jp/JapaneseSite/20140717_malawi_geppo.pdf

モロッコ政治月報(2014年6月)

【主な出来事】

●5月30日～6月1日、モハメッド6世国王がチュニジアを訪問。

●6月4～5日、メズアール外務・協力大臣は、北京で行われた中国・アラブ経済フォーラムに出席した。

●9～10日、モスクワにて、第1回モロッコ・ロシア経済フォーラムが開催された。

【内政・政局】

1 不法滞在移民合法化措置の現状

2 天野 IAEA 事務局長のモロッコ訪問

3 テロ組織の解体

4 ムーレイ・ラシッド王子の成婚

【外交・国際関係】

5 モハメッド6世国王のチュニジア訪問

6 モハメッド6世国王の露訪問の延期

7 メズアール外務・協力大臣の中国訪問

8 モロッコ・仏関係

9 メズアール外務・協力大臣のエジプト訪問

10 メズアール外務・協力大臣のペルー訪問

11 モロッコ・露経済フォーラム

12 その他要人往来

<http://www.ma.emb-japan.go.jp/pdf/seijigeppo/Seijigeppo201406.pdf>